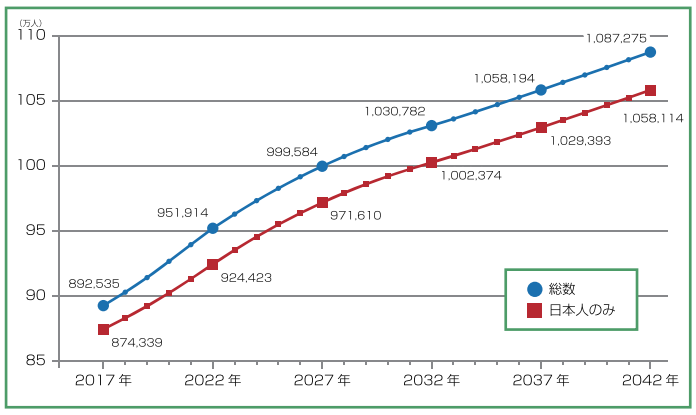
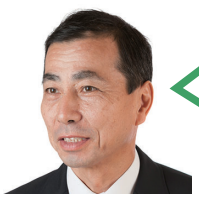
「今後も増加しつづける世田谷区の人口」



世田谷区の将来人口推計が３年前の推計を大幅に上回る増加のため、昨年７月再度改訂されました。２３区最大の人口を抱える世田谷区は、昨年１０月に９０万人を超え、さらに約１０年後の２０２７年頃には１００万人に到達する見込みです。





QUESTION

区長は良好な住宅都市としてのあり方や、世田谷区における適正な人口について、どのようにお考えなのでしょうか。

ANSWER

区における望ましい人口規模については、９０万人が適正で、１００万人が適正ではない、などと決めることはできないと考えています。人口動向は子どもの出生数や年少人口と高齢者人口などの世代別の構成、転出入の動向などを注視する必要があり、以前から申し上げているように人口バランスが重要です。

世田谷区長

０歳から１４歳までの年少人口については、２５年後には現在と比較して３万５千人程度、増えることが予想されています。すでに区の西部地域では、年少人口の増加により学校施設がパンク寸前のところがあるようです。





QUESTION

保育施設の整備についてはもちろん、学校施設についても、これからの人口推計をしっかり精査して準備しておく必要があると考えますが、今後の対応方針をお聞かせください。

ANSWER

近年の都心回帰等の影響により、他区や川崎市、横浜市といった近隣自治体でも、児童数が千名を超える小学校が出てきております。世田谷区においても、児童・生徒数が増加しており、主に区の西部地区において増加傾向が顕著となっております。こうした状況も踏まえ、児童・生徒数の推移を見極めながら、個々の学校の大規模化対策に着実に取り組み、引き続きよりよい教育環境の確保を目指してまいります。

政策経営部長



毎月、奥沢地区で行われている高齢者の昼食会「さくら会」に参加しました。おもに一人暮らしの高齢者の方が対象です。食事はすべて、お元気な７０～９０代のスタッフの方々が手作りしています。１２月はクリスマス昼食会でした。

６５歳以上の人口増に至ってはさらに深刻で、２５年後には現在と比較して７万５千人以上も増加する見込みであることからも、特養待機者においては、さらに増加の一途をたどることが懸念されます。





QUESTION

多くの区民の方々に、今後も安心して住み続けていただくためにも、高齢者施設整備をはじめ、様々な高齢者施策をより一層推進しなければならないと考えます。区としてはどのようにお考えでしょうか。

ANSWER

本年７月の将来人口推計から、高齢者人口が今後さらに増加することをふまえ、要介護高齢者の推移や高齢者のニーズ把握にもとづき、高齢者施策をさらにスピード感をもって推進する必要があると認識しております。区では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に全力で取り組んでまいります。

高齢福祉部長

高齢者の増加は着実に進みます。こうした中、区は高齢化をむしろチャンスと捉え、高齢者がいきいきと活躍できる地域とすることが必要です。そのためには、健康寿命を延ばし、介護・医療なしでも過ごせる高齢者の比率を高めていく必要があります。その上で、介護・医療の受け皿整備も計画的に進めていくべきと考えます。



裏面へつづく

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

平成二十九年 決算特別委員会 総括質疑 10/3

平成三十年一月発行



区政レポート

和田ひでとし通信 第十九号

ごあいさつ

平成三十年、新たな年を迎えました。今年はどんな年になるのでしょうか。

世田谷区は人口九十万時代となり、様々な課題を抱える中、本庁舎建て替えを始めとして各地域・地区での公共施設も更新の時を迎えています。新たな時代へ向けて、世田谷区のために引き続きしっかり取り組んでまいります。

今年もどうぞよろしくお願いします。

区政報告会を行いました



毎年行っている和田ひでとし区政報告会、予定通り３会場で行いました。皆さんに区政の現状をお伝えするとともに、各地区での課題を共有するため、それぞれの会場で様々なご意見をいただきました。まちづくりセンターの建て替えやバス路線の充実、開かずの踏切問題など、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

今後の予定

- **和田ひでとし後援会「新春のつどい」**
  平成 30 年２月 11 日　11 時 30 分 より
  二子玉川エクセルホテル東急 にて
- **平成３０年度 世田谷区議会 第一回定例会**
  平成 30 年２月 21 日～３月 27 日
  和田ひでとしが自民党代表質問をします
  （２月 21 日 午後の予定）

インターネットで「和田ひでとし」と検索してください！

和田ひでとし　検索

あなたのご意見をお聞かせください！

info@wadahidetoshi.com

表面からのつづき

「本庁舎整備の進捗状況」

昨年９月、本庁舎等設計者審査委員会において、耐震性をより高め、財政負担を抑える内容を提案した事業者が、最優秀者として選ばれました。区が当初提案した一部保存案からは大きく前進していると感じております。





QUESTION

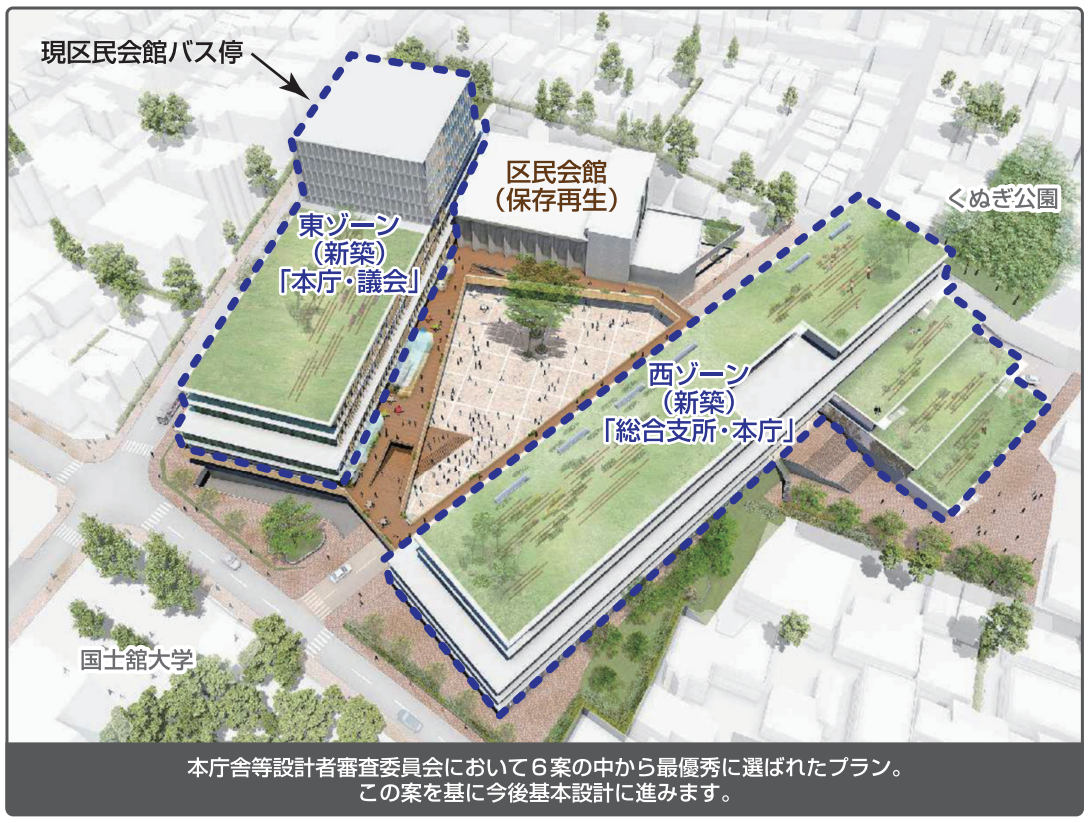
現庁舎の課題である、耐震性不足・分散化・狭隘化等の解消を基本設計に反映し、早期竣工を目指すべきと考えますがいかがでしょうか。

ANSWER



庁舎整備担当部長

今回の最優秀者の提案では、現在地で本庁舎等の業務を継続しながら、解体・建築を繰り返す、非常に難易度の高い工事となります。今後、基本設計を進める中で、設計者からの提案を尊重するとともに、業務の継続、工事期間中の災害対策本部機能の維持、工事期間中の安全管理、近隣への影響等も考慮しながら、工程を検討してまいります。



本庁舎等設計者審査委員会において６案の中から最優秀に選ばれたプラン。
この案を基に今後基本設計に進みます。

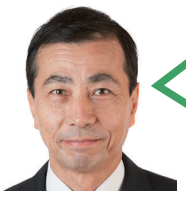
いつ起こるか分からない首都直下型地震に備えるためにも、これ以上、本庁舎整備を遅らせる訳にはいきません。平成３２年度着工に向けて、しっかり注視してまいります。

平成２９年 決算特別委員会 補充質疑 10/17

「南北間公共交通の課題」

今年度末で、世田谷区民会館と田園調布駅を結ぶバス路線「園０２」が廃止され、特に奥沢や東玉川の方々がオリンピック・パラリンピック会場となる馬事公苑や、区民会館方面に行くのがますます不便になります。また、等々力操車所と区民会館・梅ヶ丘駅を結ぶバス路線「等１３」については昨年１月から運行が始まりましたが、朝夕の時間帯が運行されず、日中も本数が少ないという課題があります。

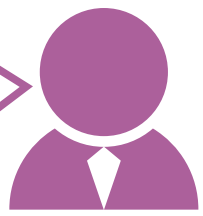




QUESTION

便数も含めたより一層の拡充を望む声、併せて等々力から田園調布までの路線の延長を望む声も上がっております。このような声について区の見解を伺います。

ANSWER



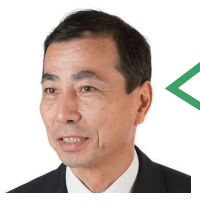
交通政策担当課長

等１３系等は、大井町線・田園都市線・世田谷線・小田急線をつなぎ、南北交通の強化にかかせない路線であると考えております。今後も、引き続き、より便利で使いやすく、多くの皆様に利用していただけるバス路線網となるよう、バス事業者と検討してまいります。

南北間公共交通の強化は区の重点政策として掲げられています。これが逆行するようなことがないよう、区として事業者にしっかりと働きかけていくことを要望していきます。

「都市のみどりをいかに守り増やしていくか」

「みどり豊かな住宅都市世田谷」と言われますが、世田谷区のみどり率は平成２８年度時点で25.18%です。目標の33%まではまだまだ足りません。



QUESTION

各地域での、都市の市街化と共存できるみどりの創出について、区の見解を伺います。

ANSWER



みどり政策課長

世田谷のみどりづくりは、みどりの量の確保、みどりの質の向上、区民との協働の側面から、総合的に進めていくこととしております。たとえ小さなみどりであっても、地域毎にその空間に適したみどりの創出を行うことが、重要であると認識しております。



我が家のわずかなスペースにプランターを活用して季節の花を植えています。秋に植えたビオラ・金魚草・ガーデンシクラメンなどが目を楽しませてくれます。

みどりは世田谷区の大きな魅力です。住宅地や商店街などで協力いただく取り組みをさらに進め、「みどり３３」を一緒に目指していきます。

姉妹都市提携２５周年 バンバリー市親善訪問



■ バンバリー・カセドラル・グラマースクール（幼稚園から高校までの私立の一貫校）
小学生交流事業にほぼ毎年派遣生徒を出しており、区の交流事業とは縁が深い学校です。２８年度からは中学生交流事業も開始しており、この学校の中学生は第二外国語として日本語を選択できます。片言ですが、私とも何とか話が通じました。

バンバリー市親善訪問に行ってきました。前回の議員団訪問は２０周年記念式典への参加ですから、５年ぶりとなります。私にとって初めてのバンバリー訪問は、市民の皆さんをはじめ、市や議会の皆さんの温かい歓迎を受け、思い出深い、また意義深い訪問となりました。世田谷の小学校の子どもたちの訪問交流は延べ２７回実施されており、毎回１６名の児童が訪問しています。中学生の親善訪問は２０１６年より始まっています。これからの姉妹都市交流が益々深まっていくことを願っています。